

令和4年度 事務事業評価シート（1）

[令和3年度事務事業]

一般会計		事務事業分類		A 一般事務事業	
事務事業名		在宅乳幼児親子教室開催事業		事業番号	
				014-054	
担当部署名		子ども青少年	局	子ども青少年育成	部
				子ども家庭	
				課	

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	3.将来に希望が持てる子育て・教育 ~Children's future~	施策	(1) 妊娠から学齢期まで切れ目のない子育て支援の充実
		有	取組の方向性	①妊娠・出産期から乳幼児期までの子どもと家庭への支援			
	寄与するKPI	有・無	指標名	—			
		無	現状値	—	目標値	—	
堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(4)質の高い教育をみんなに	ターゲット	4.2	
		有	取組	安全安心で質の高い幼児教育・保育の提供、小学校教育との連携			
	寄与するKPI	有・無	指標名	—			
		無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画	堺市子ども・子育て支援事業計画			
3	事業開始年度	昭和 57 年度	点検年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)				

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、各区			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	主に保健センターが実施する乳幼児健診において、発達のつまずきが疑われる在宅の乳幼児とその家族で、教室の参加を希望する者	対象数	単位	
			145	人	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	集団指導が必要とされた在宅乳幼児とその保護者に対して適切な援助を行うことにより、当該乳幼児の健全な発達を促進し、さらには適切な次の進路へとつなげることを目的とする。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	市内全9教室において、月1回集団保育による経過観察や保護者指導を行って、子どもの療育の必要性を見極め、適切な進路指導を行う。			
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)				
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	定性的な成果目標					
	経過観察又は集団指導が必要とされた在宅乳幼児の健全な発達の促進					
	当該目標を設定した理由	当事業は、発達に課題があり、経過観察又は集団指導が必要とされた在宅乳幼児及びその保護者に対して適切な援助を行うことを目的としているため。				
	目標に対する実績	必要な乳幼児に適切な援助と進路指導を行うことができています。				
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標	
	実参加児童数	人	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
			目標値	-	-	-
			実績値	188	139	
	達成率	-	-			
当該指標を選定した理由	発達に課題があり、経過観察又は集団指導が必要とされた在宅乳幼児及びその保護者に対して適切な援助を行うため。					
目標値の設定根拠・算出方法	実参加児童数の増加をめざしているのではなく、対象者へ適切な援助を目的としているため目標値は設定し					

令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	在宅乳幼児親子教室開催事業	事業番号	014-054
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

事業費 (a)	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	2,368	1,816	2,346	1,121	2,112
13財源内訳					
国支出金					
府支出金					
市債					
その他 ()					
受益者負担金(使用料、手数料等)					
一般財源	2,368	1,816	2,346	1,121	2,112
14人件費 (b)	1,620	1,640	1,640	1,640	1,640
15年間経費(c)=(a)+(b)	3,988	3,456	3,986	2,761	3,752

事業費の内訳

(単位：千円)

事業費内訳	項目	年度		事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
		R3	R4				R3	R4		
16	謝礼金	R3	決算	783	783	通信運搬費	R3	決算	3	3
		R4	予算	1,715	1,715		R4	予算	18	18
	その他保険料	R3	決算	184	184	R3	決算			
		R4	予算	210	210	R4	予算			
	印刷製本費	R3	決算	0	0	R3	決算			
		R4	予算	1	1	R4	予算			
消耗品費	R3	決算	146	146	R3	決算				
	R4	予算	148	148	R4	予算				
食糧費	R3	決算	5	5	R3	決算				
	R4	予算	20	20	R4	予算				

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
		① 実参加児童数	人
② 上記①にかかる年間経費	千円	3,456	2,756
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	18,383	19,827
備考 (算出についての説明等)			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	<p>保健センターの乳幼児健診後のフォローであり、サービスの対象者は限定され、また、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により参加児童数が減少したことに伴い、令和2年度と比較し単位当たり経費は増加し事業の効率性は下がったが、令和3年度は139人に対して支援を行っており、児童の健全な発達を促進するため一定の役割を果たしていると言える。</p>
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	<p>基本計画①妊娠・出産期から乳幼児期までの子どもと家庭への支援として、令和3年度では、139人に対して支援を行った。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、教室の参加者数が少なくなったり、教室が運営できない月もあったが、基本的には月1回市内9教室（R4.11月以降8教室）で親子やグループで様々な遊びのプログラムを通じ、乳幼児の発達を促すとともに保護者が子どもとの関わり方を学ぶ場を提供した。また、経過観察や保護者指導を行った中で、療育が必要な子どもについては、早期に適切な機関へとつないだ。</p>
----	---